

# 静勝寺報

お施餓鬼お盆の季節となりました。皆様ご清祥にてお過ごしのことと存じます。

さて元号が令和になりました。今年に入ってから平成を振り返るTV番組や新聞、雑誌等の記事をたくさん目にしました。その中で演出家の野田秀樹氏が「この30年『間』がなくなったね、『間』を恐れるようになった。」(4/4毎日新聞夕刊)と語っていました。平成年間で身近で一番変わったことといえば携帯電話の普及でしょう。いつでもどこでも電話ができるようになり、さらに、メールやラインにより相手の状況も考えなくても連絡が取れるようになりました。また、分からないことはすぐ調べることが出来、情報はすぐ手に入りますし、拡散もあつという間です。欲しい物があればネットで注文して日本いや世界各地から手に入るようになりました。よって「時間」的『間』はなくなり、「手間」をかけずに何事もでき便利な世の中になりました。

一方で、早く返事をしなければ、早く届けなければ、早く結論を出さなければと、ゆっくり考える『間』がなくなり、さらに『間』を恐れるようになりました。早く返事が来ないこと、届かないことにイライラし、あるいは情報量の多さに惑い、つい他と比べてしまい、あれもこれもしなきゃと追われ、またあまりにも早い変化についていけず焦るなど、余裕がなくなり、心の『間』をも失ってしまったようです。

人のことを「人間」といいます。『間』があつてこそその「人間」であり、『間』がなくなつ

通巻 第33号  
施餓鬼会号  
令和元年 6月20日  
発行所 115-0055 北区赤羽西 1-21-17 静勝寺  
編集発行人 高崎忠道



先日テレビ(NHK「地球ドラマチック赤ちゃんラポへようこそ」)で、赤

ちゃんは生まれた瞬間から他者と関わろうとし、人とのつながりを重視します。教えられなくとも善悪が分かり、2歳までには自己意識を発達させ、共感力を育て、思いやりの心を育て成長しているそうです。この能力がコミュニケーション力であり、これが『間』ではないでしょうか。この能力は、誰もが生まれながらにして持つっており、特に2歳までが身に付けるのに大変重要な時期といえ、それを育て身に付けさせるのが親や環境です。その後成長につれて、交わりの範囲を広げていき、友達や多くの人との関わりを築き、遊びや集団の

てしまえば、当然、人と人はぶつかり合うようになり、傷つきます。それを避けようと、自分の意見はあまり言わず、多数派に従い、あるいは同じ意見の者だけで集まり、異なる意見は受け入れず、さらには他を攻撃するようになる。またぶつかることはストレスとなり、イライラ怒りにつながります。それを発散できれば良いのですが、できなければ行き場がなくなり、他者に向かえば、ネット上の誹謗中傷、虐待、いじめとなり、

昨今の痛ましい事件にもつながります。またそれが自分に向かえば自己嫌悪、自傷行為につながります。いま心を痛めている人のなんと多いことか、心の病院の多さと、その混み具合を見ると分かります。

中でコミュニケーション能力を発達させて成長していくのです。しかし昨今の子供たちは、スマホゲームに熱中し、あるいは習い事に忙しうなかなかコミュニケーション能力を発達させるには難しい状況にあるのかもしれない。そして、そのまま大人になって社会に出た時、人との『間』の取り方が分からずストレスになり、さらにその解消の為益々スマホに熱中し依存していくというのが現状でしょう。

ではどうしたら『間』を取り戻せるか。直接の会話を増やしていけばよいのですができない方も多いでしょう。よって各自が心に『間』を持つことです。それには呼吸が大切です。できれば坐禅をおすすめしますが、深呼吸するだけでも、心に余裕が生まれます。さらに、過去や未来、他人にとらわ

空の偈  
かたよらない心  
こだわらない心  
とらわれない心  
ひろくひろく  
もつとひろく  
これが般若心経  
空のこころなり  
奈良薬師寺勸行集より

心持つよう努力をすることで心に『間』ができるはず。

英語で人間をヒューマン(human)といいます。その語源の一つはラテン語のフムスで「土(腐葉土)、大地」を意味し「人間は腐葉土のように他者を育む存在となれ」との意を込めて名付けられたとす(諸説あり)。我々のご先祖様という腐葉土のおかげで育ちました。そのことに感謝の念を表し、そして、家族や社会の皆、子孫の腐葉土になることを心がける。それが心に余裕を持つことにもつながり、またお施餓鬼会、お盆の意義でもあります。

チャリティコンサート



花まつり

3月10日、本年も東日本大震災チャリティコンサートをを行いました。計150名程の来場者があり、住職の挨拶、板鼻弘子氏の秋田弁の語り、渡部百合子氏の福島弁の語りを楽しく聞き、金子陽三氏のウクレレ演奏、高崎美保(寺族)のピアノ演奏、村手有子氏のバイオリン演奏、「思いでロマンチカ」による昭和歌謡を来場者とともに歌い、うんちくに笑いに包まれました。最後に出演者全員と来場者の皆で「千の風になつて」「花は咲く」を歌いました。当日のチケット代から経費を指し引いた分と静勝寺からの寄付合わせて15万円を主催の「ハトニぶろ」さんが福島民報教育福祉事業団に届けてくださいました。

4月8日は、お釈迦様の誕生日「はなまつり」です。花御堂を飾り、誕生仏に甘茶をかけてお祝いします。本年も生花で飾った花御堂を本堂前においてお参りに来た方々に甘茶を差し上げました。



りは6日午後、赤羽駅西口広場で花御堂を飾り、甘茶飴を配り、托鉢募金し集まった浄財を北区社会福祉協議会に義援金として寄付しました。



先住直道大和尚七回忌法要  
4月28日 巢鴨白泉寺来馬英紀老師に導師にお迎えして先住の七回忌法要を執り行いました。今回は教区寺院並びに学校関係者のみでしたが、和やかな雰囲気のもと先住を偲び有意義な時間を過ごしました。

今後の予定

○施餓鬼会 七月九日(火)  
午後1時 受付開始

2時 護持会総会  
引続き 法話 鶴岡篤裕老師

3時 施餓鬼会法要  
法話 青梅市竹林寺鶴岡篤裕老師

本年も、東京の特派布教師(禅師様に代わり全国を回って法話をする)である鶴岡老師にお頼みしました。

○棚経 お盆のお経

七月十三日(土) 十四日(日) 都内、埼玉南部  
十五日(月) 予備日

八月十三日(火)、十四日(水)  
七月に伺う以外の地域

毎年伺っているお宅には、日時をお知らせします。新盆等、本年から新たに御希望の方はご連絡お待ちしております。

○道灌まつり(太田道灌公の命日)

七月二十六日(金) 午後4時半 法要 道灌堂

5時 おまつり 階段下参道、夜店

○秋季彼岸会法要九月二十三日(月、中日)  
午前十一時 法話 引き続き彼岸会法要

○永平寺東京別院長谷寺参拝

十月二十七日(日) 別紙参照

この度、永平寺別院長谷寺報恩御正忌において、静勝寺住職高崎忠道が「焼香師」(法要の導師)を拝命いたしました。めったにない機会ですので皆さまと一緒に参拝いたしました。

○坐禅会 毎月第一土曜 午後3時~5時

○写経会 毎月第二土曜(7月は20日)  
午後3時~5時

○みんなで歌おう 毎月第四土曜  
午後2時半~4時

○日曜坐禅会、朝の会  
毎週日曜朝6時 坐禅会、  
6時45分~8時 朝の会(読経と話)

○86号線道路裁判

第六回 8月1日(木) 午後3時  
バス 8月1日午後1時20分頃集合(予定)  
イトーヨーカドー裏道路集合 片道500円

直接、東京地方裁判所103号法廷に午後3時までにおいで頂いても大丈夫です。東京地方裁判所は、地下鉄霞ヶ関駅A1出口すぐです。



編集後記

今号は諸事情で2ページになってしまいました。私事ですが4月にお陰様で還暦を迎えました。本人は若いつもりでしたが、あまりにも赤いちゃんちゃんこが似合いすぎて愕然としました。今年の夏が猛暑でないことを祈ります。

無邪気な赤ちゃんの姿を見ると心に余裕が生まれます。